

町ぐるみ「和木学園」報告書 ～和木町（村）の大災害を知ろう～



1 和木学園の概要

町全体を学園と捉えて、その学園で行われる生涯学習を推進する取組である。新たな取組として、生涯学習を推進するイベントやニーズに応じた講座づくりを展開するとともに、これまで取り組んでいる活動も和木学園の取組として捉えることができる。

2 「和木町（村）の大災害を知ろう」実施経緯

5月～6月に町民の方とワークショップ（3回）を行い、その中で本講座を企画した。

前回8月に実施した「古地図片手に街歩き」に続き、町民が企画-準備-実施した講座の第2回目にあたる。

和木町の災害では平成26年8月6日の豪雨災害の記憶が新しいが、それまで「災害が少ない町」というイメージがあった。しかし和木町の過去からの災害を調査してみると、大変な苦労を強いられ、多くの犠牲を被りながら生き残って来たという事実を知らされる。また、天災では無いが、和木町（村）では第二次世界大戦時に若い男女を含む数百人がわずかな時間のうちに、B-29の空爆により亡くなるという和木町（村）の歴史上最大の悲劇もあったのである。

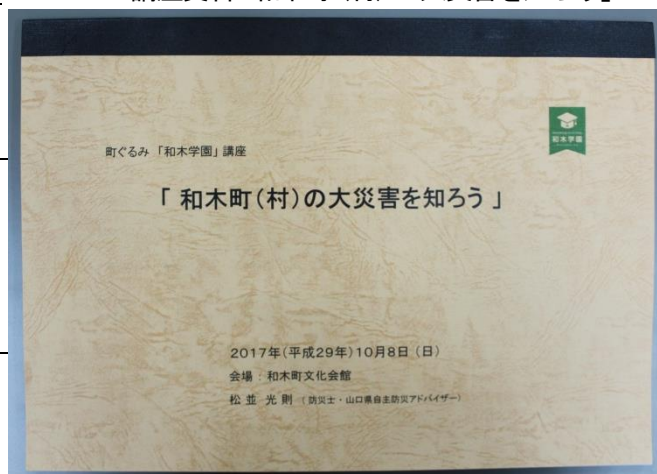
このような和木町（村）の災害の歴史を風化させることなく、町民及び行政に知ってもらい、そして後世に伝える必要があるとの強い思いから実現した講座である。

3 日時・場所

日時：平成29年10月8日（土）10：00～11：45

場所：和木町文化会館視聴覚室

講座資料「和木町（村）の大災害を知ろう」



4 講師

松並光則 氏（和木4丁目在住）

防災士・山口県自主防災アドバイザー

前上灰場自治会長・元三井化学（株）社員

5 参加者

学園生 一般27名

事務局 光貞賢志 與三本高志 名越章博

6 講座概要

右写真にある資料を講師が作成。講義形式の講座。（全33ページ）

講座の様子

10：00	開 会	和木学園・本講座について
10：05	火 災	
10：15	飢 饉	
10：20	水 害	
10：35	休 憩	（10分）
10：45	台 風	
11：00	戦 災	
11：30	質疑応答	
11：40	閉 会	



7 講座の様子

○講師の紹介

松並光則 氏

「防災士」の資格を持ち、「山口県自主防災アドバイザー」としても活躍。

氏は「趣味は防災」と語られるほど、広く、深い知識をお持ちであり、調査・研究にも余念がない。

平成 26 年 8 月 6 日に和木町を襲った豪雨災害についても、防災士・町民の目線から当時の災害発生から終息までの状況、行政の対応について検証されており、その成果は本講座や資料に発揮されている。



国、県、防災関係各機関発行の資料、和木町史等々、多くの資料を読み解くだけでなく、戦災については氏自らが被災者から直接ヒアリングした体験談を記録し、本講座の資料に丁寧にまとめていただいた。その資料は町の災害史として後世に伝えるべき非常に貴重なものであることに間違いない。

なお、本講座のために氏と事務局にて数回にわたる打ち合わせを行ったが、そのたびに氏の防災、和木町の災害史への並々ならぬ想いを感じることができた。

○講座内容について（主要なものを抜粋）

（水害）

「岩国・和木豪雨災害」2014年（平成26年）8月6日（水）

災害発生前の降雨・雨量状況から、発災当日の被災状況・和木町行政の対応を時系列でまとめ、検証しながら豪雨災害についての説明を行った。当時の行政の災害に対する混乱がよくわかる内容であった。

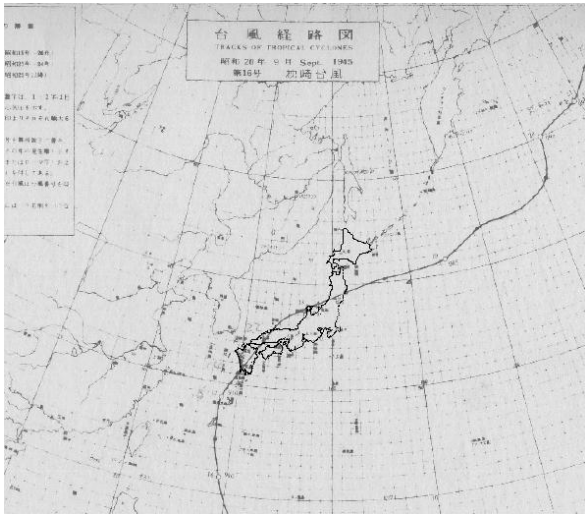


瀬田の山が崩れ、瀬田川をせき止める。そのため川の水が瀬田2丁目に流れ込んだ。

(台風)

「枕崎台風」

和木町(村)の歴史の中で特に甚大な被害をもたらした「枕崎台風」の概要と当時の和木村とその周辺における被害状況をまとめながら、被災者の証言も織り交ぜ、記憶に新しい「岩国・和木豪雨災害」以前に、多くの死者を出した台風被害があったことを説明。



台風(枕崎台風)の被害

～和木村での被害状況～

「9月17日暴風・大雨」、「安禅寺、釈迦堂を残し倒壊」と記録(「和木町史」災異編に「山口県災異誌」より引用)

以下「和木町史」年表(「岩国郷土誌稿」を引用)

- ・死者 29人
- ・行方不明者 20人
- ・重傷 7人
- ・家屋流失 28戸
- ・田畑流失 33町歩 (32.7 ha)

(戦災)

「陸軍燃料廠・興亜石油爆撃」

当時の和木村付近への軍事施設の進出、和木村沿岸部への興亜石油(株)・陸軍燃料廠の進出から、それに伴う和木村内の状況の変化、アメリカ空軍B-29大編隊の襲撃と当時の被災者の証言をまとめながら、人的被害、物的被害を資料や写真を織り交ぜながら説明。和木における悲惨な戦争の記憶を風化させてはならない。

陸軍燃料廠・興亜石油爆撃(講座資料より写真抜粋)



B-29が112機来襲し、500ポンド(250kg)爆弾2,000発超を投下した。

参加者アンケート結果(原文のまま)

問1 この講座に参加した感想

とても満足 11人、満足 11人、ふつう 2人、あまり満足しない 0人、不満 0人

問2 この講座のよかったところ・改善すべきところ

【よかったところ】

- ・和木に住まわせてもらってから30年も過ぎますが、和木の事を知らない自分が恥ずかしくなりました。準備周到の講座のご縁ありがとうございました。(50代女性)
- ・資料が良くできていると思った。(70代男性)

- ・非常によく調査された資料を入手できました。(60代男性)
 - ・詳細な調査に基づく講演で本当に勉強されておられるので感心致しました。和木町のために更なる研究をお願いします。(60代女性)
 - ・資料に基づいた研修でよく理解できた。小冊子は大切に保管しておく。(60代男性)
 - ・具体的、詳細な資料に基づく説明により、災害の恐ろしさをあらためて認識した。(60代男性)
 - ・大変くわしく調べていますね。過去を思い出して今後にかわしていきたい。(70代男性)
 - ・よく調べられていた。(70代男性)
 - ・和木の事がよくわかったのでよかった。ありがとうございました。(70代女性)
 - ・大変わかりやすく、すばらしい資料でした。(70代女性)
 - ・町の災害等、ただ住んでいるだけで何も知らなかったが、よく解り 和木町に増々愛着を感じる。(70代女性)
 - ・まちの歴史を知ることができた。災害の伝達の大切さを感じた。☆資料が多かったこと。(30代男性)
 - ・様々な体験談を聞いたこと。(枕崎台風、陸燃空爆)(50代男性)
 - ・こんせつといぬいな資料に感動。家に帰っても改めて調べる。(90代女性)
 - ・詳細なデータ、出典元など詳しく調査されている(60代男性)
 - ・和木町の災害の歴史・内容を知ることができた。記録の大切さを強く感じた(60代女性)
 - ・和木町の災害の歴史がある程度理解できた。(70代男性)
 - ・良く調べてあり感服です。(70代男性)
 - ・地域に密着した、他では聞けない話がまとめられ、分かり易く説明され、大変良かったと思います。(60代男性)
 - ・過去の災害から学び、今後に生かす。(70代男性)
 - ・データに基づいた説明は非常に良かった。(70代男性)
 - ・過去の災害がわかり良かった。(60代男性)
 - ・資料がとてもよくまとまっている。(70代男性)
- ・講義だけでなく、現地にて説明を聞くことができ、理解が深まったと思う。(80代男性)
 - ・実物を目のあたりに見てよくわかる。(70代男性)

【改善すべきところ】

- ・色んな提案があるように思ったが、行動につなげるにはどうしたら良いか?という提案を考えると良いと思うのだが・・・あとは実行するには?・・・(70代男性)
- ・次回、災害の対応策についての講座を開いてほしい。(60代男性)
- ・「大災害を知ろう」知ること減災とのつながりを話してほしいと思いました。(60代男性)
- ・資料不足があったので、これからは取っておいて下さい。(70代女性)
- ・行政への不満を感じた。職員の参加が少ない。(30代男性)
- ・町の災害に対する体制、しっかり確立してほしい。(70代男性)
- ・内容が豊富なので、2回に程度に分けても良いのではないかと思います。(60代男性)
- ・記録に残しておく(70代男性)

問3 この講座をどのように知りましたか(複数回答有)

広報わき 18人、案内チラシ 4人、人づてに聞いた 7人、

その他 5人(和木学園受講中、前回講座で案内があった、町内掲示板、和木学園ホームページ、講師からの紹介)

問4 こんな講座を受けてみたい・やってみたいというご意見

- ・老人介護のやり方、どんな方法が老人にも介護者にも負担をかけずに自宅でやれるのか教えてもらいたい。(60代女性)
- ・南海トラフ地震に向けての減災方法など教えてほしい。(60代男性)
- ・和木の日本の古い伝統を守る等から、高齢者と若年者が交流出来る行事(講座)を実施しては(70代男性)
- ・将棋を習いたい。(70代女性)
- ・蜂ヶ峯に関する講座。スポーツの活性化に関するもの(30代男性)
- ・戸籍(知っているようで知らないこと)(50代男性)
- ・防災について(60代男性)
- ・和木町(村)史関係を今後も扱って欲しい。(60代男性)

今後について（事務局所感）

この度、町民の方を交えたワークショップにて企画された講座の第2弾として本講座「和木町（村）大災害を知る」を実施した。講師の松並氏は「事実に基づく災害の歴史は、今後の歴史を歩む者への貴重な教訓として、私達和木町民は「事実を知り」、これを「記憶に留め」、次の世代へと「伝承していく」義務があるのではないか。」という強い想いを持ち、氏が自ら本講座を発案し、講師を引き受けられた。受講された学園生の皆さんも終始その説明に食い入るように引き込まれていた。また、募集人員の20名を上回る27名の受講があり、平成26年8月6日の岩国・和木豪雨災害を経て、防災に対する町民の関心が高まっていることが感じられた。

アンケート結果にもあるように、今後は「減災」に重点を置きながら、個別の災害に特化した内容として防災に係る講座のニーズがあるため、防災講座の第2弾、第3弾の実施も検討できると思う。